

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100511		
法人名	有限会社ヤマギシ企画		
事業所名	グループホーム入江(1階)		
所在地	釧路市入江町8-29		
自己評価作成日	令和5年10月29日	評価結果市町村受理日	令和6年1月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyvoyoCd=0174100511-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和5年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症介護を強く意識していきながらも認知症の方という見方ではなく一人の人としてという見方を意識しています。そうすることで利用者様の尊厳を自然に守る事が出来て、安心感や声掛けに対しての受け取り方も全然違うと思っています。また深い信頼関係も築きやすいです。日常生活の中で利用者様の状況によって、家事のお手伝いに参加したりしなかったりと無理せずマイペースに過ごせるように考えています。また認知症でも当たり前の普通の生活が送れる場としていきたいと思っています。グループホームの特性上医療的な部分で限界はありますが、ご希望があれば看取り介護の選択も可能としています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は商店や企業、病院等の産業地域と高齢者住宅や一般住宅が混在する場所に位置し、近くには自然豊かな公園がある。職員も利用者も明るく、家族や利用者、地域住民との絆を大切に、事業所理念を職員全員が共有し、利用者はゆったり、のんびりと思いきいに生活している。小・中・高校が近くにあり、中でも小学校との交流が盛んで、児童が作成したカレンダーを事業所内に掲示している。コロナ禍以前には運動会に招待席も用意されていた。事業所敷地内には住宅型有料老人ホームがあり、介護支援の協力が得られている。運営者は職員の育成にも力を入れ、研修参加を職員に促し、より質の高いケアに務めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今はコロナによりフロア会議も開催出来ない月もあり以前は会議の初めに職員が暗唱して理念を復唱していたが職員の入れ替わりもあり実践に繋がりがずらくなっている。	新規採用職員には1～2か月後に理念について説明をしている。各フロアでの定期会議で理念を共有しケアに活かしている。課題解決には理念に振り返りながら努力している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で訪問は出来なくなっているが子供たちがカレンダーや工作等をホームに届けてくれるなどして利用者様が交流を楽しみにしている。町内会はゴミ拾いの参加や運営推進会議は書面開催になる。	近隣の小学校とは運動会などの行事に声をかけてもらい利用者と共に参加する等交流をしている。震災で生き残ったひまわりの種を継続して植えて行くプロジェクトに参加し、地域とつながる活動をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護の相談や地域の人に伝える機会がある。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナで書面開催からやっと対面開催ができるようになり利用者の様子やホームの取り組みなどを話し合いの中で報告して意見の交換してを少しずつ活かされて来ていると思います。	運営推進会議は、町内会長、地域包括支援センター職員、町内会副会長などが出席して開催している。会議では事業所の取り組み報告や近隣の出来事などを共有し意見交換をしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからない事や困った時は市町村担当者に連絡を取り間違った方向に行かない様取り組んでいます。	管理者は市の担当者と介護関連の相談や感染症対策、困難事例への対応等、日常から連絡や相談を行える協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロア会議等で身体拘束がダメな理由や過去の事例等で話し合いを持ち身体拘束をしないケアに取り組む様にケアを進めています。	身体拘束に関する会議を年4回開催している。夕方の暗くなる時点で玄関の照明をつけ、無断外出に注意している。その後、定時刻の夜間帯に施錠をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の機会があれば参加する様にして虐待が見過ごされない様に注意を払いながら努めています。			

グループホーム入江(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナにより研修の機会も減り成年後見制度を活用している方は必要に応じて活用されています。これからも支援出来るように努めて行きたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	コロナにより家族会の開催も出来ていません。書面でのやりとりが主になっています。今後出来る様に努めて行きたいと思えます。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族様の意見を聞く機会がコロナによって減ってしまい家族会も設ける機会が出来なくなっています。	年度初めに家族会で顔の見える関係と事業所内の取り組み状況を共有し家族からの意見や要望を把握し、職員会議で協議して改善している。苦情は管理者やホーム長が対応し、共有した情報を介護の向上につなげている。	家族から職員の顔と名前の一致を望んでいる。家族への情報伝達や広報誌の活用を充実させることが望まれる。これによって家族の意見が多く寄せられることを期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その時々で課題や問題点が出て来た時は個人面談等で意見を聞くなど話し合いを持っていると思えます。	フロア会議で事業所内での初詣の企画案が出され、職員の賛同を得て、事業所内に手作り神社を設置し、利用者に喜ばれる等職員の意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に思っている様には水準的に中々上がって行かない現状でやりがいや向上心が上がりにくくなってきていると思えます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会もコロナによって少なくなり仕事を個々に分担するなどしながらトレーニングの一環として進める様に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム長がGH協議会の役員でもあり地域包括センター様の意見交換や同業者の意見交換等はネットワークにて行い向上させるように努めています。		

グループホーム入江(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始するに当たっては信頼関係を築いていけるよう常に要望や困っている事が無いか安心して過ごせるように傾聴に日々努めていると思います。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様とのコミュニケーションは取る様に努めていると思います。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	GH出来る事、出来ない事を含めて検討しながら対応して行けるよう努めていると思います。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を見極めて出来る事は行って頂きながら関係を築く様に努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の意見も重要視しながらご本人様を共に支えて行けるよう関係を築けるよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナにより毎月お便りの郵送をご家族に様に届ける事と短時間の面会の支援に留まっています。	元、利用者が居住していた家屋を見に行ったり、桜見学へドライブをするなど馴染みの場所へ出かけている。馴染みの美容室には訪問依頼している。剥製趣味の利用者仲間より制作された動物標本を事業所内に飾っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	支援出来る様に努めていると思います。		

グループホーム入江(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取り介護で契約が終了する事が多いがその後もホームの事を気に掛けて下さり山菜を届けてくれたり介護の相談に來られたり支援させて頂いています。					
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意識して話を傾聴する様に努めています。		日常会話で利用者の思いを把握している。飛行機に乗りたいとの思いに職員と一緒に出かけるなど、利用者の目的達成による生きがいにつながっている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報を確認できるよう書類等は準備し把握できるように努めています。					
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	確認できるよう書類等の準備は出来ていて把握に努めています。					
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族やと関係者様と話し合いをする様に努めています。介護計画に生かせるように努力しています。		チームで作る介護計画はモニタリングシートに職員全員で記入し、管理者がまとめた内容を職員、本人並びに家族から同意と確認印を得ている。心身の状態変化時に応じた見直しと現状に即した介護計画の作成をしている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアで記録の記載等はまだまだ細かく考えながら出来る所はあると思いますが					
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	視野を広げて柔軟性を持ち対応できるよう意識しながら対応に心がけている					
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来る事を把握して心身共に発揮できるように努力しています					
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人家族様の意向を尊重して適切な医療を受けられるよう支援しています。		訪問診療を中心に受診を行っている。かかりつけ医の受診は家族の協力を得ながら日常の様子を共有している。また必要時には手紙を添えて受診するなど適切な医療を受けられるよう支援している。			

グループホーム入江(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護を行い24時間連絡体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来ていると思います。医療関係によっては連携がとりにくい所もあります。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	円滑に進むように努力しながらその時のケースに合わせて対応を進めて取り組んでいます。	重度化の指針を入居時に本人・家族に説明している。状況が重度化または終末期に近づいた際には家族、職員と医師とで協議し、情報共有しながらチームで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナの影響もあり研修などや訓練は思うように進んではいませんがマニュアルで話し合いを持ちながら行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の小学校との協力はあるが実践は無く避難訓練の対応方法で共有は出来ていると思います。物品の備えは出来ていると思います。	ホーム長中心にBCP「事業継続マネジメント」を作成中で、その過程で気付いた内容を検討し、災害対策を地域住民との協力体制を築いていけるよう進めている。	隣接する住宅型有料老人ホームとBCM(事業継続計画)を作成し、防災減災を考慮に入れた対策内容を家族会・近隣施設に伝えることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々一人ひとりを尊重し声掛けや対応に心がけています。	トイレ利用時には耳元で小さな声や低い声で対応している。排便後に○か×のサインで排便の有無が理解できるようになり、声を出さずにプライバシーの確保ができるようになっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思に耳を傾ける様に心がけてケアしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ添えるよう心掛けながらケアしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけその人らしく出来るよう支援しています。		

グループホーム入江(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとり出来る事を配分しながら食事を楽しんでいる。	職員が3日毎に献立表を作成している。利用者からのフライドチキンなどのリクエストがある他、夏祭りには焼きそば、フランクフルト、キュウリの一本漬けなどをバイキング形式で行い好評を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療機関から水分量の制限があったり一人ひとりの状態に合わせて支援させていただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	認知症もあり促しながらのケアや家族様と相談して往診の歯科医にも協力を得ています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔がわからない方は時間を見て誘導を心がけています。	トイレには大きな文字で「トイレ」と表示している。退院後は安静が続く排泄介助が多くなるが事業所内での適切なケアによりトイレでの排泄ができ布パンツへ改善している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を考えて朝の牛乳やヨーグルトなどの栄養バランスや一人ひとりの排便状態に合わせて主治医にも相談しながら下剤も使いながら行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	通院日や外出などを考えて日程を決めたり入浴を今日は入浴せずに明日にするなど希望に添える時は変更しながら行うが寝る前はスタッフが揃わなく希望に添えない場合もあり時間を決める時もあります。	異性入浴介助が困難な利用者が職員との関係構築後はスムーズな入浴介助ができています。入浴日・時間帯は利用者の希望に添って対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様の希望に添えるよう休息時間は個々に別々に支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	把握できるよう努力はしていますが難しい部分もありすぐ薬の内容が見られるよう書類をみやすい所に置いて確認しながら行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に思考は異なるが出来る限り希望をかなえる様に努力しながら行っています。		

グループホーム入江(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で人ごみの多いところは避けてドライブやテイクアウトなどを利用していつもと違う感覚で楽しんで頂けるように工夫していました。	職員と利用者が1対1で散歩したり、ドライブでは近隣公園・ドライブインなどに行きソフトラームやたい焼きを購入して気分転換やストレス解消につなげている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナの関係で外出が難しい状態です。認知が進みお金を置いたところを忘れて無くなったなどの事があり現在お金はホームでの金庫でお預かりをしています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に娘さんより電話がある方は取り次いで会話を楽しんで頂いています。手紙を出す方は最近はいませんが送られて来ることはありません。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る範囲で居心地よい工夫を心がけています。	共用空間は対面式で台所からは利用者の状況が見渡せ利用者と話しながら食事の準備を行っている。事業所は「利用者の自宅」同様に考え、トイレなどのごみは1日2回取り替えるなど介護処理物が目につかないよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に楽しみ方が違うので、気の合った人と一緒に過ごしたり、その日の気分で居場所を考えて過ごしています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人家族と相談しながら居心地よく過ごせるように工夫しています。	居心地良くする居室作りに自宅で使用されたものを利用している。病院より入居の際は使い慣れた家具や備品の替りに、家族に以前使っていたような家具を揃えるよう進めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせて出来る事は行いながら声掛けや見守りをしながら生活出来るよう工夫しています。			